

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546 FAX03(3207)3918
発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志

第35回 教団総会

日本基督教団の

過去・現在・将来



教団総会開催。将来を展望しつつ、過去、現在を生かして

第35回教団総会は、一〇月二四日から二六日まで三日間、東京・池袋のホテルメトロポリタンで、開会時正議員四〇〇人中三六五人が出席して開催された。沖縄教区は前回総会同様、議員(一〇人)を選出しなかったが、知花正勝教区議長ら三役と信徒議員一人の四人が推薦議員として総会に出席した。

「日本基督教団の過去・現在・将来」を主題に掲げた今総会は、冒頭から議長報告を巡って、白熱した議論が展開し、議長不信任動議も出るなど日程が遅れ、教団総会議長選挙は、一日目の夕食後予備選が行われ、選ばれた五人の候補者が短い挨拶を行い、本投票を実施。同夜、結果が公表され、山北宣久議員(東京)が、二〇五票を獲得して、総会議長に三選された。

山北宣久 二〇五
後宮敬爾 一五三
望月修治 一一三
車田誠治 二二
小林 眞 二

(投票総数三六六、有効三六五、無効一)

山北宣久議長は、「大変重く結果を受け止めている。多様な意見のある中で、志新たにこの身を捧げて行きたい。将来を展望しつつ、過去、現在を生かして行きたい」と三選の抱負を語った。

三役二選、常議員は大幅交替

前総会は財政総会と言われた。財政健全化・教団再建の第一歩と評価する者からも、批判的に見る者からも。今総会は、「日本基督教団の過去・現在・将来」が、今総会の主題。過去の分析、清算も不十分なのかも知れない。現在なすべき責任への対応も足りないだろう。しかし、最も欠けているのは、将来への展望ではないだろうか。前総会時に、かの地震が起こった。会堂等の再建は未だ進まない。教団の大きな亀裂もなかなか修復できない。総会は終わったが、総会期の歩みは始まったばかり。

三役二選、常議員は大幅交替

書記は、慣例通り議場の承認を得て、議長、副議長の協議で選任することとなり、鈴木伸治議員(神奈川)を推薦し、議場が承認した。この結果、三役は揃って三

小林眞副議長は、「教団の多様性の中に対立はあるが、対決はしたくない。教憲・教規を出たところでは議論にならない。どうか自制をして頂きたい。教憲・教規の可変性はあるが、変えるまでは守らねばならない」と所信を述べた。

副議長選挙は二日目午前に行われ、予備選で五名の候補者を選んだ後、本投票で、小林眞議員(東海)が副議長に三選された。

小林 眞 一八七
後宮敬爾 一六五
佐々木美知夫 一一一
小林 聖 一一
小宮山剛 一

(投票総数三六六、有効三六六)

山北宣久議長は、議長総括報告の中で、今総会の主題に沿って言及し、「過去四〇年は『荒野の四〇年』であり、教団の歩みに誤りがあった」と述べた。また、その誤りとして、「教団信仰

「共に神の前に謝罪しよう」

「荒野の四〇年」で議長報告

山北宣久議長は、議長総括報告の中で、今総会の主題に沿って言及し、「過去四〇年は『荒野の四〇年』であり、教団の歩みに誤りがあった」と述べた。また、その誤りとして、「教団信仰告白をあいまいにしたこと」「聖礼典を正しく執行しない現実」「会議制が疎雑されたこと」「万博問題で混乱を来したこと」「キリストの伝道命令に不忠実であったこと」など十二項目を挙げ、罪めるのは「当該教区は傷

選された。常議員選挙は二日目午前、三名連記の予備選が行

われ、午後の本投票で別表の常議員二七名(教職四、信徒二三)が選出された。教職五名、信徒四名が入れ替わった。

日程の遅れが最後まで影響し、「日本基督教団と沖縄キリスト教団との合同のとなえなおしに関する件」「ふたたび日本基督教団性差別問題特別委員会再設置を求める件」など六議案が時間切れ廃案となった。

(永井清陽報)



9名が交替した新常議員

【教職常議員】		
後宮 敬爾 (北海)	87 票	
◎向井 希夫 (大阪)	77 票	
◎佃 真人 (兵庫)	76 票	
◎松村 重雄 (奥羽)	73 票	
長崎 哲夫 (東京)	70 票	
石橋 秀雄 (関東)	67 票	
◎梅崎 浩二 (九州)	64 票	
北村 慈郎 (神奈川)	64 票	
小橋 孝一 (東京)	64 票	
佐々木美知夫 (四国)	64 票	
◎釜土 達雄 (中部)	63 票	
長山 信夫 (東京)	62 票	
西田 直樹 (神奈川)	62 票	
原田 謙 (西東京)	61 票	

【信徒常議員】		
和田 献一 (関東)	84 票	
斎藤 仁一 (東北)	74 票	
◎津村 正敏 (兵庫)	73 票	
金刺 一雄 (関東)	71 票	
○難波 幸矢 (東中国)	71 票	
◎東谷 誠 (大阪)	69 票	
西澤 宏 (西中国)	68 票	
小林 貞夫 (東海)	65 票	
高橋 豊 (西東京)	65 票	
望月 克仁 (神奈川)	65 票	
○大杉 弘 (中部)	64 票	
渡部 清数 (大阪)	64 票	
樋田 利明 (東京)	62 票	
◎初 ○元 無印 再		

つく。削除を要求する」などの反論や、「議長報告に希望と光を見出した。ここにしか教団の生きる道はない」「聖礼典の乱れは看過出来た。教区議長の中には未受洗者配餐をしている人がいる」の賛成論など白熱した議論が続いた。

山北議長は「どちらが悪いと断罪しているのだから、共に神の前に謝罪しよう」ということだ。セクシュアル・ハラスメント問題にしても、何故、糾弾ばかりするのか、痛みを共有出来ないのか。聖礼典の乱れは看過出来ない。放置したら、教団は崩れる。どうか自制、悔い改めて欲しい」と語った。

一時半後、議論がほぼ出尽くした所で、議運から採決要請が出たが、竹前昇総幹事が「議長報告は賛否を問うものでなく、報告があったことを承認すればよい。その承認は内容の賛否ではない」との表明がなされ、挙手多数で議長総括報告を承認した。

これに対し、「力で押し切るのならば仕方がない。

牧師に窮状を訴えたら、いろいろ指摘を受けた。全く自己流で二〇年、聞きかじりの間違った知識を貯えていたらしい。▼この際、謙虚に、第一歩から出直すと、『初めての野菜作り』なる本を買求めた。流行の力タカナ名の野菜ではなく、茄子や胡瓜を初めてする定番から丁寧に教えてくれる。いかにデタラメが多かったかに気付かされた。

▼成績が振るわない現状を打破しようとするのなら、何よりも必要なことは、初歩の初歩、基本の基本に立ち返ることではないだろうか。そこまで帰って、まるで立場・方針が違っているのならば仕方がない。

荒野の声

▼今年の我が家庭菜園は、殆どのものが不作で、大きな挫折感を味わった。投資もした。労力も、気持ちもつき込んだ。だが報われなかった。その原因を、全て天候異変のせいと決め込んでいた。その証拠には、凶作時に強いサツマイモだけが例年以上に採れた。▼しかし、どうもそれだけではないらしい。長野県で、半農半牧の優雅な日々を送る(そんなことはない)Y

るやり方は不適切」だとして山北宣久議長への不信任案が提案され、動議として成立したが、採決の結果、議員総数三七二、賛成一三四で議長不信任案は少数否決された。

(永井清陽報)

「世界宣教委員会」設置案を可決

従来の「在日韓国」を引き継ぐ新委員会も設置

「世界宣教協力委員会組織変更に伴う教規等変更に関する件」は、現行の世界宣教協力委員会を世界宣教



実のある対応策を腕組みして考える

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

する」という提案である。提

案理由には、次のような経

緯と理由が記されている。委員会の

中に、六の小委員会を設置

な視野で展望をもって行っ

べきだ。」

一方で、全面的に支持す

るという意見も述べられ、

常設委員会になることは積

極的意義を持つとする見解

も述べられた。

竹前総幹事は「在日韓国

朝鮮人の方々や、在日大韓

教会を軽視するものではな

い」、「従来から世界宣教に

関する指針が討議され、常

三教会と関係が深い」と補

足的な説明を述べた。

西田直樹議事運営委員長

は、休憩を提案した。

議事再開後、西畑望議員

は「修正案を出したので、

準備ができるまで議事を中

断して欲しい」と発言した。

山北宣久議長は、「不幸な誤

解があつてはならないので

中断し、明日、再び審議す

る」、「在日大韓教会は韓国

三教会と関係が深い」と補

足的な説明を述べた。

西田直樹議事運営委員長

は、休憩を提案した。

議事再開後、西畑望議員

は「修正案を出したので、

準備ができるまで議事を中

断して欲しい」と発言した。

山北宣久議長は、「不幸な誤

解があつてはならないので

中断し、明日、再び審議す

る」、「在日大韓教会は韓国

三教会と関係が深い」と補

足的な説明を述べた。

西田直樹議事運営委員長

は、休憩を提案した。

議事再開後、西畑望議員

は「修正案を出したので、

準備ができるまで議事を中

断して欲しい」と発言した。

山北宣久議長は、「不幸な誤

解があつてはならないので

中断し、明日、再び審議す

る」、「在日大韓教会は韓国

三教会と関係が深い」と補

足的な説明を述べた。

西田直樹議事運営委員長

は、休憩を提案した。

議事再開後、西畑望議員

は「修正案を出したので、

準備ができるまで議事を中

断して欲しい」と発言した。

山北宣久議長は、「不幸な誤

解があつてはならないので

中断し、明日、再び審議す

る」、「在日大韓教会は韓国

三教会と関係が深い」と補

足的な説明を述べた。

西田直樹議事運営委員長

「同性愛者差別問題」議案否決

複雑な展開となり、議論紛糾

「日本基督教団が自らの

起こした『同性愛者差別問

題』に真摯に向き合い、性

的指向を理由とした人権侵

害と取り組むことを宣教の

課題とする件」が、二日目

午後に審議された。

提案は、要約すると次の

ようなものであった。(1)二

〇〇年に開催された協議

会の内容を記録集として作

成・配布する。(2)常議

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

会・協賛会・学習

開会礼拝

『主の執成しに支えられ』

午後一時半から開会礼

拝が、朝岡瑞子氏(船橋

教会信徒)の司式により

行われた。日本基督教団

信仰告白が告白され、野

村忠規氏(松山城東教会

牧師)がヨブ記16章18

20節、ローマの信徒への

手紙8章31〜39節から説

教を語った。

「もし神がわたしたち

の味方であるならば、だ

れがわたしたちに敵対で

きますか。パウロはロー

マの厳しい迫害の最中に

あって神を讃え、このよ

うに語っている。なぜな

ら神は私たちのために、

その尊い御子を十字架に

架けて下さった。この事

たちにも一つの実が

知らされた。

共におられる十字架の

キリストが私たちの弱さ

を知って下さり、執成し

て下さる。この方によっ

て私たちが闘うならば、

にも伝道を妨げる状況が

ある。しかし大牧者キリ

ストの力と執成しによ

り、その屠られる羊の群

れに加わるならば、神は

その闘いの最中にもキリ

ストの勝利を得させて下

さる。四国教会、小松島

教会もそうであった。戦

後、それまで教会を迫害

していた特高警察の一人

が、洗礼を受けたと教

会を訪れて来たのであ

る。このことに勇気を与

えられる。私たちも信仰

あつて星のように」と題

して追悼の辞が語られ

えられる。私たちも信仰

あつて星のように」と題

して追悼の辞が語られ

た。

◆ ◆ ◆

総会第三日目午前八時

半から岡本知之牧師(西

宮教会)の司式により、

十月二〇日に刊行された

ばかりの日本基督教団式

文(試用版)を用いて、

聖餐礼拝が持たれた。当

日の聖書日課、コヘレト

の言葉10章8〜15節、詩

篇124編、ユダの手紙

17〜25節のみ言葉に基づ

き、「キリストの憐れみに

よつて」と題し説教が語

られた。



白熱する議論に議運も対応



豊かな交わりを感謝する時を与えられる

来賓から祝福の言葉を頂

共通する課題が多いことを実感

韓国基督教長老会
イム・ミョンギョ副議長
両教団が一九六七年に宣
教協約を結んで以来、キリ
ストにおいて深い交流を継
続できたことを神に感謝す
る。日本基督教団が過去数
十年に示した宣教へのビジ
ョンとその実践は、韓国の
教会の良き規範となったこ
とを強調したい。また、昨
今保守的傾向にある日本社
会に対し、平和の使徒とし
ての役割を忠実に担ってい
ることに深く尊敬の念を抱
く。半世紀を越える分断に
苦しんでいる韓半島のため
にも祈っていただきたい。
平和の使徒として召された
教会が成し遂げるべき時代
的使命がある。お互いのた
めに祈り協力して平和と正
義が満ち溢れる神の国を成
就してゆく先頭に私たちが
立てるよう主の御名により
祈る。
なお、副議長より記念品
が教団に贈られた。

台湾基督教長老教会
タンウー・チヨアン議長
台湾基督教長老教会と日本
基督教団が長きに亘り調和
豊かな関係を分かち合っ
て、喜びの時も困難な時も
互いを受け入れ分かち合い
の機会を持つてきた。宣教
師派遣などによる人事交流
は私たちのパートナーシッ
プの具体的な現れであり、
神の国を現実化するための
ものである。この困難な時
代にあって、今までに増し
て世界的視野で伝道をなし
続け、私たちの協力関係を
強める必要がある。聖霊が
両教会、また他のすべての
教会を導き、真に平和と正
義の証人として固く立ち、
私たちの国、地域、世界が
調和と安全の場となるよう
共に祈りたい。

アジアキリスト教協議会
フrawエ・キッドアン総
幹事
この総会は日本の諸教
会、特に日本基督教団の歴
史の里程碑となることであ
ろう。私たちにあってこの
総会は、私たちの心に調和
と一致を同時にもたらすゆ
えにその実質は会議以上の
ものである。隔ての壁を取
り除き、新しくされる希望
の象徴である。現実には私
たちがアジアの歴史におい
てもつとつの転換点にいる
ことを語っている。私たち
は経済、社会、政治におい
て不確かで、問題と不安定
さを体験している。直面し
ているのは政治、経済に留
まらず、宗教的に倫理的に、
また民俗的背景をもって理
解しなければならぬ精神



イム・ミョンギョ副議長から
お祝いの言葉と記念品

的面があることは明白であ
る。したがって、私たちに
は聖霊による刷新が必要で
ある。私たちの時代に神の
使命における協力の精神に
おいて共に前進し、アジア
キリスト教協議会は神の愛
があらわれるよう日本基督
教団と協力し続けていきたく
い。

アメリカ改革派教会
ジョン・リー スーパー
バイザー
日本基督教団とアメリカ
改革派教会は、長く、意義
深い関係の歴史を持つてき
た。私たちは日本人のため
に多くの伝道計画をもって
おり、日本基督教団と共に
働くことは東アジアにおけ
る協力関係のひとつであ
る。アメリカ改革派教会は
北アメリカで最も古い教派
で、今もなお、イエス・キ
リストにあって改革され、
成長し続けている。私たち
の友好関係により、神の国
のため共通の源を持ち分か
ち合うことができると思い
ます。私たちの将来の関係が
祈りに満ちたものであるよ
うに。本総会において互い

に学びあうことで強めら
れ、また新しくされるよう
に。すべての人のために、
私たちが一つとしてと目
的を持っておられる神をほ
めたたえる。
新任スーパーバイザーで
あるジョニー・アリシア・
バエツ氏より記念品が教団
に贈られた。

ドイツ福音主義教会
エリサベツ・ヒューブラ
ー・梅本 ドイツ福音教会
牧師
日本基督教団が宣教と伝
道の刷新をしていることを
聞き大変関心を抱いてい
る。二〇〇七年一月にヴィ
ッテンベルクで開かれる
「未来会議」に向けて準備
する中で、ドイツの教会も
また新しい伝道について再
発見しつつある。お互いの
国のキリスト者は、社会正
義、人権など共通する課題
に取り組み続けている。ま
た世界の異なる地域におけ
る紛争の平和な解決を採っ
ている。私たちは、貴教会
が、東北アジアにおける摩
擦が平和に解決するために
貢献することを期待する。

また、自国の背景により明
確な立場をとる勇氣と献身
に敬意を表する。私たちの
父なる神と王イエス・クリ
ストがこの総会を祝福し、
聖霊が日本基督教団の指導
者たちを導くよう祈る。
在日大韓基督教会
パク・スギル総幹事
一九八四年に両教会の宣
教協約が締結され、二十二
年以上の年月が流れ、信徒・
教職の祈りの中、さまざま
なレベルで豊かな交わりの
機会を与えられたことを主
に感謝する。改定入管法に
象徴されるように、在日外
国人の管理強化が進められ
ている今日の状況にあつ
て、いまで以上の連帯の
動きがあることを願ってい
る。直面するであろう課題
に両教会が宣教協約の精神
に立ちつつ、連帯を強め対
処してゆきたい。二〇〇八
年、在日大韓基督教会が宣
教百年を迎える。この間に
歴史の主なる神が与えてく
ださった恵みと祝福を感謝
し、新たな百年に向けて主
の宣教を担う力とヴィジヨ
ンを与えられたい。貴教会
がこれを共に祈ってくれる
ことを願う。

日本キリスト教協議会
興石 勇議長
教団と日本キリスト教協
議会は歴史的にもまた現在
も、深いつながりにあるが、
いつも、最大の加盟教団と
して、協議会の働きを支え
てくださることに感謝して
いる。多くの人々の期待を
担って始まった二十一世紀
が、少なくともこれまでの

二〇〇六年十一月三日は、日本国憲法(以下、憲法
とする)が公布されて九六〇年の節目の時です。
憲法は、その前文で「政府の行為によつて再び戦争
の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、こ
こに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確
定する」と謳っています。
つまり、日本の過去の戦争は、政府の行為による
と認識し、国内外、とりわけアジア諸国に甚大な被害と
犠牲をもたらしたことへの深い反省に立つた決意が憲
法の基礎と言つてもよく、この決意の上に「①国民主
権②恒久絶対平和③基本的人権の尊重」の三原則を定
め、これらの実現こそ、新しい日本国の「形」とした
のです。
特に第九条の「恒久絶対平和」に関し
ては、他の国の憲法にもあまり例を見な
い「戦争放棄、戦力の不保持」を明確に
記し、かつての戦争への反省と懺悔を前
面に出しています。
また憲法施行直前に制定された「教育
基本法」は、先の憲法の原則に立つて、
その内容の実現を担うべき次世代の教育
の指針として用いられ、尊ばれてきまし
た。
しかるに、憲法公布六〇年の今、かつ
てない規模と強さで、憲法第九条を中心
に、この憲法を改正しようとする動きが
あります。
例えば、二〇〇〇年一月に衆参両院に
設置された憲法調査会も、二〇〇五年に
はその作業を終えて最終報告書を提出し
ていますが、その調査とは形ばかりで、
実質的には改正の準備作業にばかりま
さんでしたし、さらに昨秋には、自民党
が改憲案まで出してきています。

これら改憲の意図・目的は、現在の規模にまで膨れ
あがった自衛隊の追認などとも言われますが、そのよ
うな生やさしいものではなく、結局は「恒久絶対平和」
原則を捨てさせ、この日本を「戦争のできる国」に変
えることにあると言わざるを得ません。
その証拠に、第九条二項は「陸海空軍その他の戦力
は、これを保持しない」ですが、改憲案によると、「自
衛軍の保持」とされており、明確に「集团的自衛権の
行使」に踏み込めるものとなっています。
これらの改正と、実現されるかもしれない自衛軍の
強化を「ハード面での改正」とするならば、その改正
の実質を担い、実践する人材を創り育てることが「フ
ット面での改正」であり、それこそが「教育基本法の

ところで、その期待に背き、
世界の終末さえ予感させる
よつな展開を示しているよ
うに思われる。このような
時期に開催される本総会の

議長声明

憲法改正及び教育基本法改正 に反対する

日本基督教団総会議長 山北 圭久

第三五回の教団総会が十月二十四日から
二六日に開催されましたが、再三、憲法と教育基本法
改憲反対の意見が出され、日本の将来につき憂慮する
発言が相次ぎました。
今回は、教団総会決議という私たちは取りませんが、
議場のこうした意向を受けて、議長名で戦争責任につ
いての謝罪を公にしている教団として、ここに憲法改
正と教育基本法改正に対する議長声明を発表する次第
です。
願わくは神われらを平和の道へと導いて下さいます
ように。
二〇〇六年十一月三日
憲法公布六〇年記念日に
日本基督教団総会議長 山北 宣久

このように、憲法改正と教育基本法改正とは表裏一
体で、完全にリンクしているのです。
憲法改正により、戦争のできる国とし、教育基本法
改正により、国家のために死ぬことのできる教育を行
つて、この日本はどこへ行くつもりとして
いるのでしょうか？
私たちの信じるキリストは「神の国
を宣べ伝えよと仰せになるだけでなく、
その神の国の拡がりの中で、地上での責
任を担うようにも求められ、平和を
実現する人々は、幸いである」とも仰せ
になりました。
私たちは、このキリストの求めに応
える道の一つが、「平和憲法を守ること」
であると考えます。
かつて一九六二年十一月三日、日本基
督教団は、常議員会の名で「憲法擁護に
関する声明」を明らかにしましたが、今
は、その頃よりもっと厳しい状況にあ
り、より憲法擁護の姿勢を鮮明にし、「戦
争のできない日本」を継続させねばなり
ません。

キリストの息吹を受け、キ
リストとのコンスラチオ
(息吹の交換)によつて一
教会一致への思いを一層強
めてくださるよう願つ
(渡邊義彦)